

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970600397		
法人名	有限会社おいていか		
事業所名	グループホームちゃんて		
所在地	奈良県桜井市大福233番の16		
自己評価作成日	22年1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaihosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク		
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号		
訪問調査日	平成22年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

レクリエーションと食事において、当事業所では、「全食手作り、ご利用者様と共に」。使用する水はスタッフと利用者様で汲みに行く「ごろごろ水」。花見は万博公園、遠足では方男波海水浴場にての潮干狩りなどに出かけます。スタッフが定着して、チームワークがよい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ちゃんて」とはアメリカ原住民の言葉で「家族を大切にすることの意味のこと。人間愛を根底にいつも一緒。みんなと一緒に。ずっと一緒。をテーマにして支援している。職員自らが策定した「ちゃんて安全行動指針」を常時携帯し(名刺大に縮小したもの)、毎日唱和をしている。利用者の安全確保、サービスの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	クリスマス会や納涼会にて地域の方にも遊びに来ていただけるようにしている。又、町内のイベントにも参加させていただいている。(秋祭り、バザー等)	ホームの理念に「人間愛に結ばれ、そこから生まれる敬愛と親愛の心を大切に、個性を生かし、介護支援を行います」と謳い、毎日のケアの中でそれを自然に実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつだが、近隣散策中に挨拶をかわす関係が出来るつつある。	自治会に加入。バザーや祭りに参加して、地域住民との交流を楽しんでいる。自治会の集会で認知症についての講演を行ったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域公民館にて「認知症とは」をテーマに福祉施設として実施状況説明会に呼んでいただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区会長さんや民生委員の方が参加していただいているので地域のイベントや参加可能な行事を紹介してもらっている。	近々、第5回目の開催を予定している。記録は全職員に回覧、情報を共有している。会議出席者にホームをより深く理解して頂けるよう、イベントへの参加を呼びかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	クリスマス会や納涼会にお誘いさせていただいたり毎月、施設の新聞を作成しお渡しさせていただいている。	市担当課へホームだより「ちゃんて」を毎月持参、実情を説明し、助言を得たりと協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践	マニュアル書作成や研修が年間事業計画に含まれている。	マニュアルを基に研修が行われている。「拘束に至らないためにはどうしたらよいか」を毎日チェックし、一人ひとりのケアについて確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル書作成や研修が年間事業計画に含まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアル書作成や研修が年間事業計画に含まれている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様との契約時には、管理者、施設長が説明する		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口を設置している以外にアンケート用紙を活用したりしている。	重要事項説明書に相談窓口を明記すると共に、年数回の家族アンケートを行い、サービス向上につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期ミーティングとリーダー会議にて職員の意見を業務に反映させている。	会議やミーティングの記録は全職員に回覧、情報を共有して日々のケアに活かしている。職員同士の勤務時間外交流も図り、会議での意見も言いやすい雰囲気にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	マニュアル書作成や研修が年間事業計画に含まれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在考案中。地域密着型サービス部会にて、管理者は同業者の方と有意義な交流が持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人のスタッフに、何気なくもたらされた言葉なども、介護職員全員が共有できる情報になるように業務日誌に気づき欄を設けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会議前のアンケートや電話連絡を大切にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームにての生活以外が適しているかどうかなど、議題にあがることもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をするという考えと、共に助け合う暮らしを基本としている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と共に利用者様の畑に行くこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用様のご友人の面会も、いつでも事前連絡なしに来ていただけます	入居前の友人の来訪や、今までのかかりつけ医受診の支援等、これまでの人間関係や地域社会の関わりが継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者様同士のコミュニケーションを計る機会を作る。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時として経過を一緒に考えさせていただいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安全を見守るだけでなく作り出すよう努めている。	日々ケアする中で一人ひとりの思いに関心をはらい、その思いが実現できるようスタッフは協力し合って支援している。実践の中から新たなケアの方法を生み出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	守秘義務に則り、スタッフは個々の生活歴が記載された資料をいつでも確認できる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報と業務日誌、月報報告にてそれらの情報共有化をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて行っている。	利用者・家族・スタッフの要望を把握、担当者会議で検討し作成している。ケア目標の達成状況確認後モニタリングも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報と業務日誌、月報報告にてそれらの情報共有化をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフの持つ交友関係やご家族様の交友関係を活用し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館や公園などへのお出かけ なじみの飲食店での買い物		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりのそれまでにかかられていた主治医をそのまま診断していただけるように支援している。	月2回の往診と訪問看護ステーションとの連携は密で、緊急時対応もできている。協力医療機関(歯科を含む)や認知症専門医受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	電話連絡等、密に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各利用者の担当医と情報交換を出来る限り行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの同意契約書をご家族との話し合いによって結んでいる	看取り連携体制についての指針(同意書)が作成されており、基本理念に利用者の意思と家族の意向の尊重を謳っている。今までに看取りが2事例あり、職員研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回は心肺蘇生の研修に全職員が参加できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣駐車場のオーナー様に使用させていただける関係を持っている。	防災管理マニュアルを作成し、避難訓練を行っている。ホーム内のカーテンは防災性能のあるものを使用している。消火器も設置し、米・水の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアル書作成や研修が年間事業計画に含まれている。	プライバシー保護マニュアルが作成されており、研修の成果は日々のケアの細部に活かされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安全確保優先の中、出来る限り自己決定できる介護支援をする		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全確保優先の為、職員の見守り体制を優先する場合がある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームに美容師訪問日を設け、ご利用者様の好みに応じてカットやパーマ、毛染めなどを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は三食とも手作りで、時として利用者様に手伝ってもらう	「家庭の味を大切に」をモットーに「手作り」を心がけている。毎食ともスタッフと同テーブルで会話を楽しみながらの食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日報記載		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本は朝、夕の口腔ケアだが、利用者様の状態に応じて介護支援のかたちはかえている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	施設長は出来る限りおむつの使用をしないで良いように介護支援することをスタッフに呼びかけている	排泄チェック表を基に、時間を見計らってトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を心がけている。昼間オムツ使用者は0人である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給状況や便のチェック用紙がある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日が決まっている	週2回入浴している。市販の入浴剤を使い、快い入浴が出来るように工夫している。方向転換のできるシャワーチェアを利用して、安全安楽の入浴ケアに配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転などに気をつけている 夜勤者は、夜間穏やかな介護をして、一度起きられた利用者様も、再入眠し易いように計っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフの情報共有化と服薬ミスのないようにクロスチェックをしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いろいろなことにチャレンジしてもらえる様に、レクリエーションを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望があり、お墓参りや畑を見に行くなど、スタッフの手が空いている時は出かける	利用者の体調や希望に合わせ、地元の郷土料理を食べに行ったり、稲刈りや野菜の収穫を見に行く等と個別支援を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の同意のうえで、少ない金額でのみ所持出来るが、トラブル防止のほうに、現状では優先されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やご利用者様のめに入る位置に、皆様作った四季折々の生け花を飾る	食堂を兼ねているリビングからは各居室が見渡せ、見守りしやすい構造になっている。利用者の方々の季節に合わせたレクリエーション作品が飾られている。	空間を活かし利用者同士が寛げるスペース作りの工夫を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキテラス		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や、今まで使っていた家具を持ち込んでもらっている	職員撮影による家族とのツーショット写真やホームからのクリスマスプレゼントされたおしゃれな時計が飾られ、心和む雰囲気が醸し出されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレや洗面台とわかるようにしている		